

下水道事業会計

目 次

令和3年度芦屋市公営企業会計決算審査意見

| | |
|-------------------|-----------|
| I 審査の対象 | 7 |
| II 審査の期間 | 7 |
| III 審査の方法 | 7 |
| IV 審査の結果 | 7 |
| | |
| 病院事業会計 | 9 |
| 1 業務実績 | 10 |
| 2 予算執行状況 | 12 |
| 3 経営成績 | 14 |
| 4 収益的収支の状況 | 19 |
| 5 資本的収支の状況 | 21 |
| 6 財政状態 | 22 |
| 7 キャッシュ・フロー計算書の概略 | 25 |
| 8 経営改善の実施状況等 | 26 |
| 9 経営指標 | 29 |
| 10 むすび | 30 |
| (資料目次) | 31 |
| | |
| 水道事業会計 | 43 |
| 1 業務実績 | 44 |
| 2 予算執行状況 | 46 |
| 3 経営成績 | 48 |
| 4 収益的収支の状況 | 54 |
| 5 資本的収支の状況 | 56 |
| 6 財政状態 | 57 |
| 7 キャッシュ・フロー計算書の概略 | 60 |
| 8 経営改善の実施状況等 | 61 |
| 9 阪神水道企業団からの受水 | 63 |
| 10 むすび | 64 |
| (資料目次) | 65 |
| | |
| 下水道事業会計 | 77 |
| 1 業務実績 | 78 |
| 2 予算執行状況 | 80 |
| 3 経営成績 | 82 |
| 4 収益的収支の状況 | 88 |
| 5 資本的収支の状況 | 90 |
| 6 財政状態 | 91 |
| 7 キャッシュ・フロー計算書の概略 | 94 |
| 8 経営改善の実施状況等 | 95 |
| 9 むすび | 97 |
| (資料目次) | 99 |

表記に関する注意事項

1 消費税及び地方消費税の表記について

- (1) 文中及び表中の金額は、原則として消費税及び地方消費税を控除した額を用いた。
ただし、「予算執行状況」、「資本的収支の状況」及び「経営改善の実施状況等」中の(1)収支計画比較の数値（病院事業会計はすべて、水道及び下水道事業会計は資本的収支のみ）は消費税及び地方消費税を含んでいる（表欄外等に「消費税込み」と表記）。

2 単位未満の端数処理等について

- (1) 表中の金額は円単位で表示した。また、文中の金額は万円単位で表示し、単位未満を四捨五入した。したがって表中及び文中の金額、合計額等と一致しない場合がある。ただし、表中の金額が少額なものは、文中の金額もそのまま使用している。
(2) 比率(%)は原則として小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位で表示したため合計と内訳の計が一致しない場合があるほか、構成比などは100%となるよう内訳で端数調整を行っている場合がある。

3 勘定科目の表記について

- (1) 「収益的収支の状況」及び「財政状態」等で明記している勘定科目については、原則「財務諸表等規則」に規定されている分類で表記している。

4 表中の符合等の用法について

- (1) 金額に関する事項
「△」・・・マイナス
「－」・・・該当項目がないもの
「0」・・・零又は該当数値はあるが単位未満のもの
(2) 比率に関する事項
「△」・・・マイナス
「－」・・・該当項目がないもの、または算出不能なもの等
「著増」・・・比率が1000%以上となるもの
「著減」・・・比率が1000%以下となるもの
「皆増」・・・前年度に数値がなく全額増加したもの
「皆減」・・・当年度に数値がなく全額減少したもの

5 その他

- (1) 「収入率」は、予算額に対する収入決算額の割合である。
(2) 「執行率」は、予算額に対する支出決算額の割合である。
(3) 「達成率」は、計画値に対する決算値の割合である。
(4) 文中の内訳等は、主なものを記載している。

下水道事業会計

1 業務実績

主な業務実績は次のとおりである。

| 区 分 | 単位 | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度 増 減 | 対前年度 増 減 率 |
|----------|----------------|------------|------------|-------------|---------------|
| 行政区域内人口 | 人 | 95,149 | 95,277 | △ 128 | △ 0.1 |
| 処理区域内人口 | 人 | 95,149 | 95,277 | △ 128 | △ 0.1 |
| 水洗便所設置人口 | 人 | 95,149 | 95,277 | △ 128 | △ 0.1 |
| 水洗化率 | % | 100 | 100 | 0 | — |
| 年間総処理水量 | m ³ | 19,824,767 | 20,637,541 | △ 812,774 | △ 3.9 |
| 年間汚水処理水量 | m ³ | 17,580,772 | 17,003,896 | 576,876 | 3.4 |
| 年間雨水処理水量 | m ³ | 2,243,995 | 3,633,645 | △ 1,389,650 | △ 38.2 |
| 年間有収水量 | m ³ | 10,667,899 | 10,768,958 | △ 101,059 | △ 0.9 |
| 有収率 | %、ポイ | 60.7 | 63.3 | △ 2.6 | — |
| 年間汚泥処分量 | m ³ | 154,557 | 156,464 | △ 1,907 | △ 1.2 |
| 1日最大処理水量 | m ³ | 56,046 | 55,249 | 797 | 1.4 |
| 1日平均処理水量 | m ³ | 48,165 | 46,586 | 1,579 | 3.4 |
| 下水管布設延長 | m | 321,361 | 321,404 | △ 43 | 0.0 |
| 職員数 | 人 | 19 | 19 | 0 | — |

注1：有収率 = 年間有収水量 / 年間汚水処理水量 × 100

2：年間汚泥処分量とは下水道処理の過程で生じる汚泥の年間総量

3：1日最大処理水量及び1日平均処理水量はどちらも晴天時

4：職員数には上下水道部長を含まない

処理区域内人口

処理区域内人口は95,149人で、前年度と比較して128人（0.1%）減少している。

年間総処理水量

年間総処理水量は19,824,767m³（年間汚水処理水量17,580,772m³ 年間雨水処理水量2,243,995m³）で、前年度と比較して812,774m³（3.9%）減少している。

年間有収水量

年間有収水量は10,667,899m³で、前年度と比較して101,059m³（0.9%）減少している。

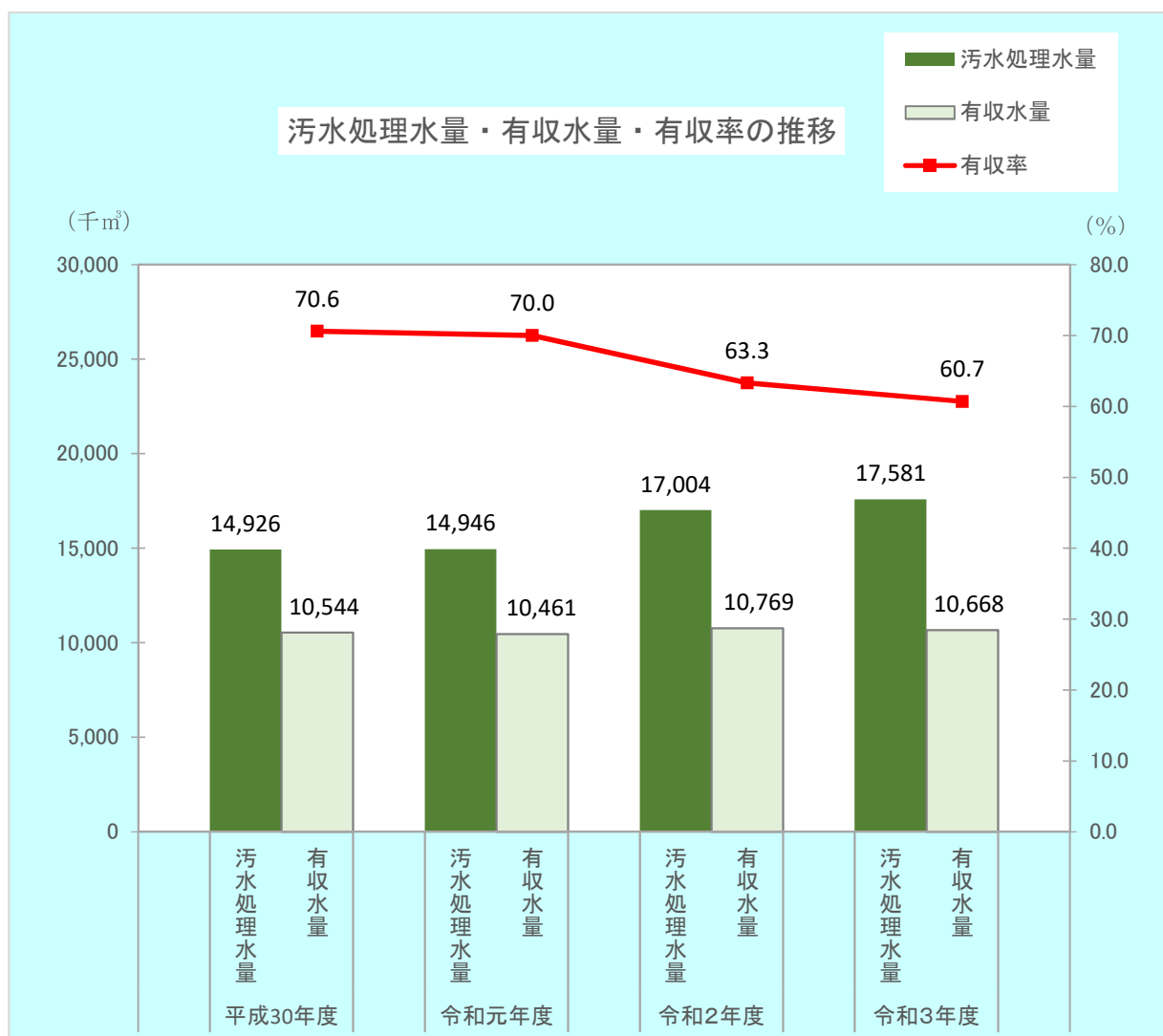
有収率

有収率は60.7%で、前年度と比較して2.6ポイント下落している。

職員数

職員数は19人で、前年度と比較して増減はない。

最近4か年における汚水処理水量・有収水量及び有収率は次のとおりである。



注1：汚水処理水量 = 年間汚水処理水量

注2：有収水量 = 年間有収水量

2 予算執行状況

(1) 収益的収入

(消費税込み)

(単位：円、%)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 予算額に比べ 決算額の増減 | 収 入 率 |
|---------|---------------|---------------|------------------|-------|
| 下水道事業収益 | 2,991,949,000 | 3,006,766,903 | 14,817,903 | 100.5 |
| 営業収益 | 1,863,483,000 | 1,843,717,266 | △ 19,765,734 | 98.9 |
| 営業外収益 | 1,128,366,000 | 1,162,502,196 | 34,136,196 | 103.0 |
| 特別利益 | 100,000 | 547,441 | 447,441 | 547.4 |

注：仮受消費税及び地方消費税 98,666,695円

下水道事業収益の決算額は30億677万円で、予算額29億9,195万円に対する収入率は100.5%となり、予算額を1,482万円上回っている。

予算額を上回った主な要因は、下水道使用料が1,622万円、受託事業収益が283万円、その他営業収益が72万円それぞれ見込額を下回ったものの、長期前受金戻入が3,453万円見込額を上回ったことによるものである。

(2) 収益的支出

(消費税込み)

(単位：円、%)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 翌 年 度 繰 越 額 | 不 用 額 | 執 行 率 |
|---------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------|
| 下水道事業費用 | 2,691,736,000 | 2,455,013,776 | 0 | 236,722,224 | 91.2 |
| 営業費用 | 2,448,865,000 | 2,235,788,709 | 0 | 213,076,291 | 91.3 |
| 営業外費用 | 230,671,000 | 218,679,844 | 0 | 11,991,156 | 94.8 |
| 特別損失 | 2,200,000 | 545,223 | 0 | 1,654,777 | 24.8 |
| 予備費 | 10,000,000 | 0 | 0 | 10,000,000 | — |

注：仮払消費税及び地方消費税 64,490,004円

下水道事業費用の決算額は24億5,501万円で、予算額26億9,174万円に対する執行率は91.2%となり、不用額は2億3,672万円となっている。

不用額の主な原因は、管渠費が6,250万円、芦屋下水処理場費が1億2,639万円、南芦屋浜下水処理場費が2,927万円、受託事業費が341万円それぞれ見込額を下回ったことによるものである。

(3) 資本的収入

(消費税込み)

(単位：円、%)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 予算額に比べ 決算額の増減 | 収 入 率 |
|--------------|-------------|-------------|------------------|-------|
| 資 本 的 収 入 | 735,408,000 | 402,036,865 | △ 333,371,135 | 54.7 |
| 企 業 債 | 511,000,000 | 218,700,000 | △ 292,300,000 | 42.8 |
| 他会計補助金 | 14,798,000 | 14,798,000 | 0 | 100.0 |
| 国庫補助金 | 209,600,000 | 168,500,000 | △ 41,100,000 | 80.4 |
| 固定資産 売却代金 | 10,000 | 38,865 | 28,865 | 388.7 |

注：仮受消費税及び地方消費税 3,533円

資本的収入の決算額は4億204万円で、予算額7億3,541万円に対する収入率は54.7%となり、予算額を3億3,337万円下回っている。

予算額を下回った要因は、固定資産売却代金が3万円見込額を上回ったものの、企業債が2億9,230万円、国庫補助金が4,110万円それぞれ見込額を下回ったことによるもので、これは、建設改良工事の延期により企業債の利用がなくなったためである。

(4) 資本的支出

(消費税込み)

(単位：円、%)

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 翌 年 度 繰 越 額 | 不 用 額 | 執 行 率 |
|-----------|---------------|---------------|----------------|------------|-------|
| 資 本 的 支 出 | 1,551,067,000 | 1,302,648,504 | 179,550,000 | 68,868,496 | 84.0 |
| 建 設 改 良 費 | 709,248,000 | 478,138,558 | 179,550,000 | 51,559,442 | 67.4 |
| 固定資産購入費 | 3,200,000 | 1,240,800 | 0 | 1,959,200 | 38.8 |
| 企業債償還金 | 828,619,000 | 823,269,146 | 0 | 5,349,854 | 99.4 |
| 予 備 費 | 10,000,000 | 0 | 0 | 10,000,000 | — |

注：仮払消費税及び地方消費税 39,676,606円

資本的支出の決算額は13億265万円で、予算額15億5,107万円に対する執行率は84.0%となり、翌年度繰越額1億7,955万円を除く不用額は6,887万円となっている。翌年度繰越額及び不用額の大部分は建設改良費で、コロナ禍により資材の納期が遅延したこと、入札不調により施工開始が遅れたこと、施工方法の検討に不測の日数を要したことが主な要因である。

3 経営成績

(単位：円、%、※)

| 区 分 | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度 増 減 | 対前年度 増 減 率 |
|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 営 業 収 益 (A) | 1,745,146,613 | 1,532,766,284 | 212,380,329 | 13.9 |
| 営 業 費 用 (B) | 2,171,298,705 | 2,434,388,379 | △ 263,089,674 | △ 10.8 |
| 営 業 損 益 (C=A-B) | △ 426,152,092 | △ 901,622,095 | 475,470,003 | — |
| 営 業 外 収 益 (D) | 1,162,454,568 | 1,554,580,312 | △ 392,125,744 | △ 25.2 |
| 営 業 外 費 用 (E) | 184,669,744 | 219,813,195 | △ 35,143,451 | △ 16.0 |
| 経 常 損 益 (F= C+D-E) | 551,632,732 | 433,145,022 | 118,487,710 | 27.4 |
| 特 別 利 益 (G) | 499,027 | 283,811 | 215,216 | 75.8 |
| 特 別 損 失 (H) | 545,223 | 281,073 | 264,150 | 94.0 |
| 当 年 度 純 損 益 (F+G-H) | 551,586,536 | 433,147,760 | 118,438,776 | 27.3 |
| 営 業 収 支 比 率 | 80.3 | 62.9 | 17.4 | — |
| 経 常 収 支 比 率 | 123.4 | 116.3 | 7.1 | — |

注1：営業収支比率 = (営業収益－受託事業収益) / (営業費用－受託事業費用) × 100

注2：経常収支比率 = 経常収益 (営業収益＋営業外収益) / 経常費用 (営業費用＋営業外費用) × 100

営業損益は、営業収益17億4,515万円に対し営業費用21億7,130万円で、差引き4億2,615万円の営業損失となっているが、前年度と比較して、4億7,547万円好転している。

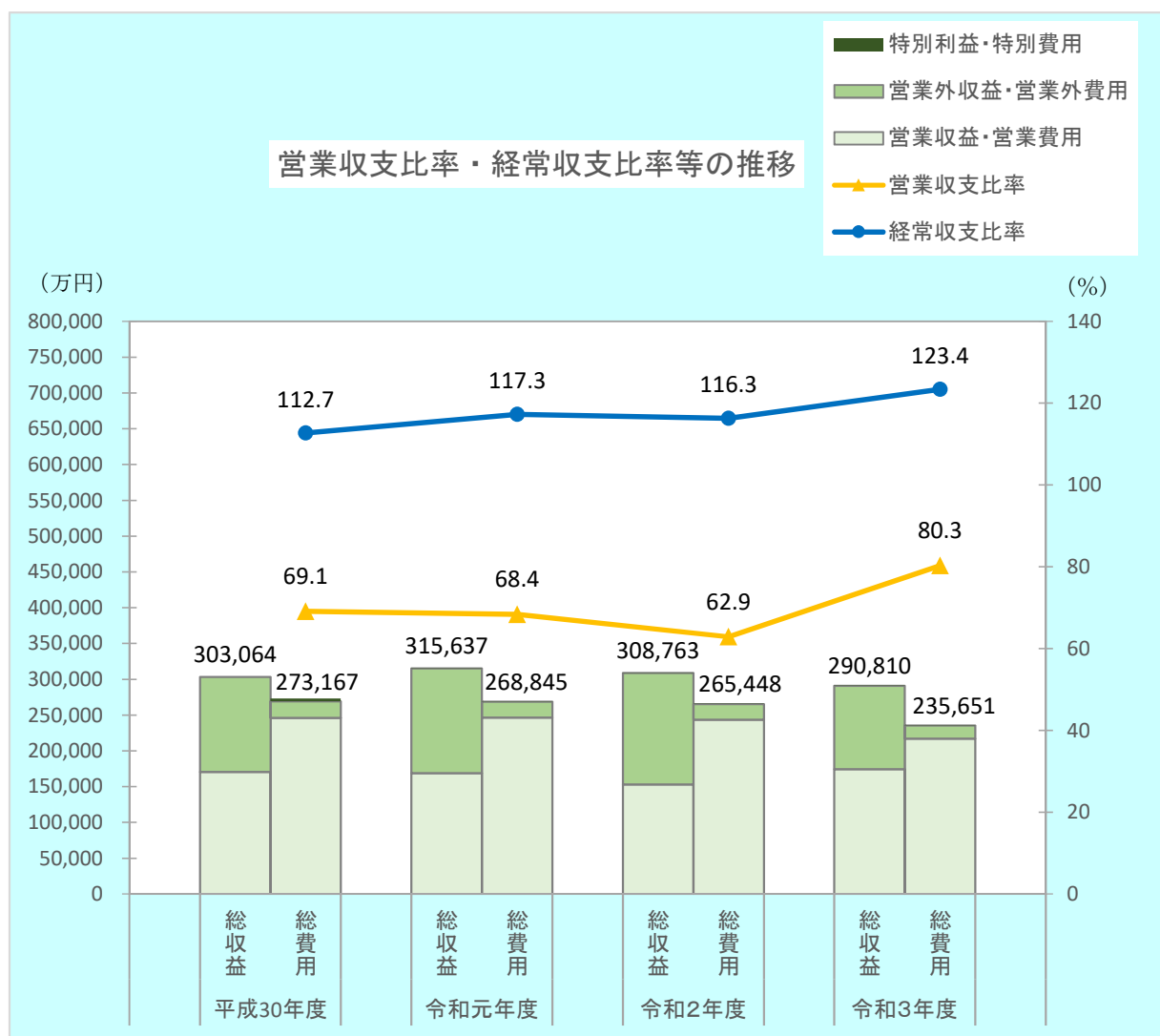
経常損益は、経常収益29億760万円（営業収益17億4,515万円 営業外収益11億6,245万円）に対し経常費用23億5,597万円（営業費用21億7,130万円 営業外費用1億8,467万円）で、差引き5億5,163万円の経常利益となっている。前年度と比較して、1億1,849万円好転している。

特別利益は50万円で、特別損失は55万円となっている。

以上の結果、令和3年度の当年度純損益については、5億5,159万円の純利益となった。前年度と比較して、1億1,844万円好転している。

営業収支比率は80.3%で前年度より17.4ポイント、経常収支比率は123.4%で前年度より7.1ポイントそれぞれ上昇している。

最近4か年における営業収支比率・経常収支比率等は次のとおりである。



注1：総収益 = 営業収益 + 営業外収益 + 特別利益

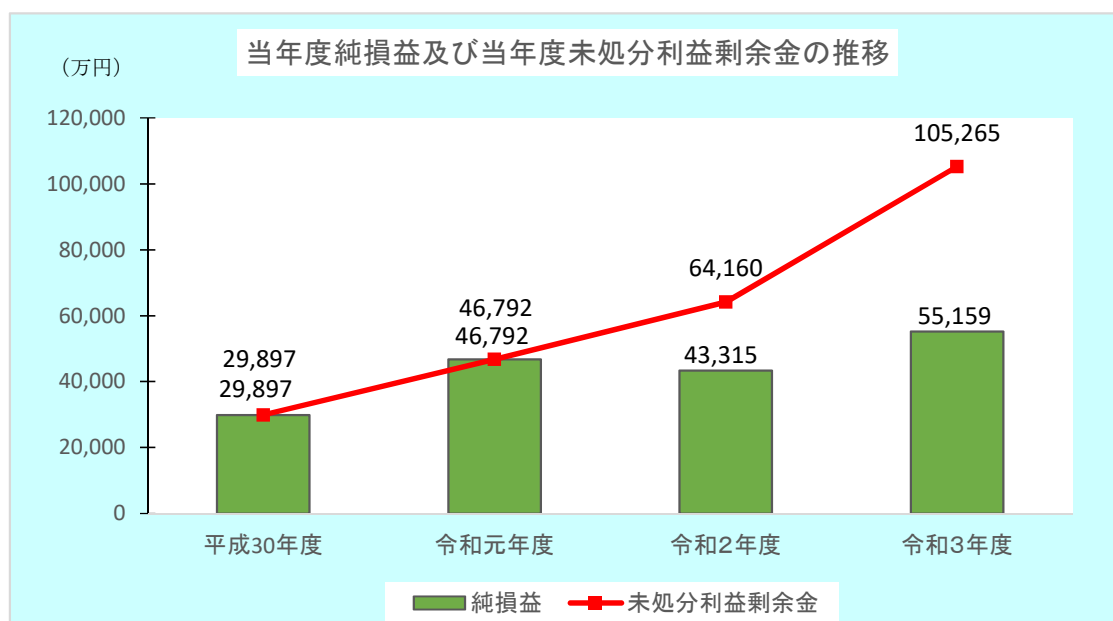
注2：総費用 = 営業費用 + 営業外費用 + 特別損失

(1) 当年度純損益及び未処分利益剰余金

最近4か年における当年度純損益及び未処分利益剰余金等の推移は次のとおりである。

(単位：円)

| 区 分 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|----------------|-------------|-------------|-------------|---------------|
| 当年度純損益 | 298,974,963 | 467,920,676 | 433,147,760 | 551,586,536 |
| 前年度繰越利益剰余金 | 0 | 0 | 0 | 208,448,778 |
| その他未処分利益剰余金変動額 | 0 | 0 | 208,448,778 | 292,619,658 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 298,974,963 | 467,920,676 | 641,596,538 | 1,052,654,972 |



当年度未処分利益剰余金の処分について。

令和3年度における当年度未処分利益剰余金は、当年度純利益5億5,159万円に、前年度繰越利益剰余金2億845万円、その他未処分利益剰余金変動額2億9,262万円を加えた10億5,265万円となっている。

当年度未処分利益剰余金10億5,265万円については、2億845万円を資本金に組入れ、5億5,159万円を減債積立金に積立てる処分(案)となっており、処分(案)どおり市議会で議決されれば、残額2億9,262万円は翌年度に繰越すことになる。

(2) 性質別費用

総費用（営業費用、営業外費用、特別損失）を性質別に分類し前年度と比較すると次のとおりである。

(単位：円、%)

| 区 分 | 令和3年度 | | 令和2年度 | | 対前年度 増減額 | 対前年度 増減率 |
|-------------|---------------|-------|---------------|-------|---------------|-------------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | | |
| 人 件 費 | 124,958,888 | 5.3 | 134,061,162 | 5.0 | △ 9,102,274 | △ 6.8 |
| 物 件 費 | 652,678,284 | 27.7 | 758,668,957 | 28.6 | △ 105,990,673 | △ 14.0 |
| 備 消 品 費 | 7,479,434 | 0.3 | 7,050,726 | 0.3 | 428,708 | 6.1 |
| 委 託 料 | 262,948,169 | 11.2 | 276,495,900 | 10.4 | △ 13,547,731 | △ 4.9 |
| 手 数 料 | 3,863,110 | 0.2 | 13,516,874 | 0.5 | △ 9,653,764 | △ 71.4 |
| 修 繕 費 | 35,454,537 | 1.5 | 37,097,521 | 1.4 | △ 1,642,984 | △ 4.4 |
| 工 事 請 負 費 | 25,872,195 | 1.1 | 103,372,080 | 3.9 | △ 77,499,885 | △ 75.0 |
| 材 料 費 | 10,005,780 | 0.4 | 5,366,445 | 0.2 | 4,639,335 | 86.5 |
| 動 力 費 | 100,679,357 | 4.3 | 90,951,320 | 3.4 | 9,728,037 | 10.7 |
| 薬 品 費 | 7,749,010 | 0.3 | 7,611,890 | 0.3 | 137,120 | 1.8 |
| 負 担 金 | 190,692,452 | 8.1 | 209,464,358 | 7.9 | △ 18,771,906 | △ 9.0 |
| その他物件費 | 7,934,240 | 0.3 | 7,741,843 | 0.3 | 192,397 | 2.5 |
| 減 価 償 却 費 等 | 1,393,661,533 | 59.2 | 1,541,658,260 | 58.1 | △ 147,996,727 | △ 9.6 |
| 支 払 利 息 等 | 184,669,744 | 7.8 | 219,813,195 | 8.3 | △ 35,143,451 | △ 16.0 |
| 特 別 損 失 | 545,223 | 0.0 | 281,073 | 0.0 | 264,150 | 94.0 |
| 合 計 | 2,356,513,672 | 100.0 | 2,654,482,647 | 100.0 | △ 297,968,975 | △ 11.2 |

総費用を性質別に分類した結果、人件費は前年度と比較して、910万円（6.8%）減少している。その主な要因は、給料が428万円、手当が318万円それぞれ減少したことによるものである。

物件費は前年度と比較して、1億599万円（14.0%）減少している。その主な要因は、工事請負費が7,750万円、負担金が1,877万円それぞれ減少したことによるものである。

減価償却費等は前年度と比較して、1億4,800万円（9.6%）減少している。その主な要因は、固定資産除却費が3,707万円増加したものの、有形固定資産減価償却費が1億8,507万円減少したことによるものである。

支払利息等は前年度と比較して、3,514万円（16.0%）減少している。その主な要因は、雑支出が1,806万円減少したことによるものである。

特別損失は前年と同じく過年度損益修正損で、26万円（94.0%）増加している。

(3) 下水道使用料と汚水処理原価

有収水量1m³当たりの下水道使用料単価と汚水処理原価及び前年度と比較は次のとおりである。

(単位：円、%、%)

| 区 分 | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度 増 減 | 対前年度 増 減 率 |
|-----------------|-------|--------|-------------|---------------|
| 下 水 道 使 用 料 単 価 | 90.95 | 77.09 | 13.86 | 18.0 |
| 汚 水 処 理 原 価 | 74.25 | 81.35 | △ 7.10 | △ 8.7 |
| 利 益 | 16.70 | △ 4.26 | 20.96 | — |
| 経 費 回 収 率 | 122.5 | 94.8 | 27.7 | — |

注1：下水道使用料単価 = 下水道使用料／年間有収水量

2：汚水処理原価 = 汚水処理費／年間有収水量

3：経費回収率 = 下水道使用料単価／汚水処理原価×100

1m³当たりの下水道使用単価は90.95円で、前年度と比較して13.86円増加している。一方、汚水処理原価は74.25円で、前年度と比較して7.10円減少している。その結果、1m³当たりの利益は16.70円となり前年度と比較して20.96円好転し、経費回収率は122.5%となり前年度と比較して27.7ポイント上昇している。

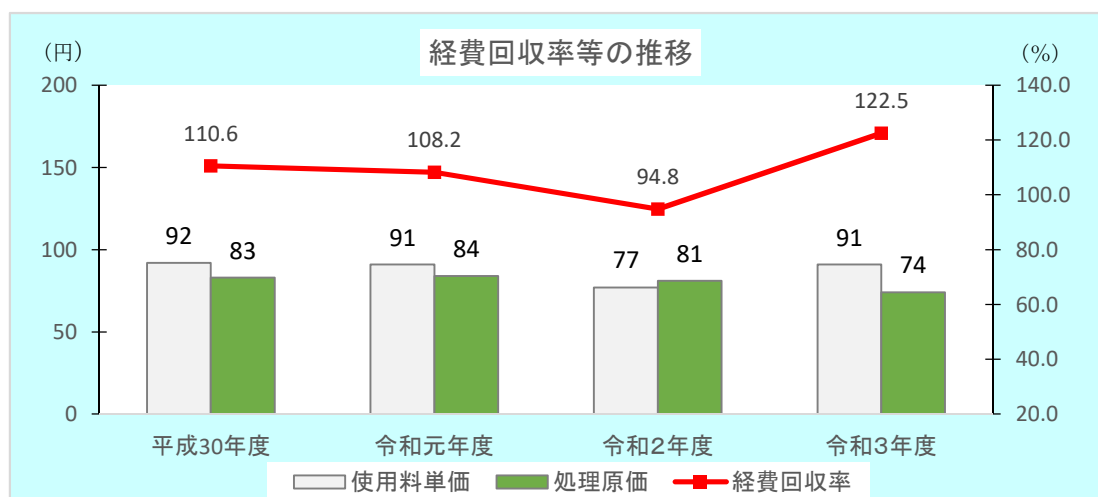
なお、経費回収率とは下水道使用料によって汚水処理に係る費用がどの程度賄えているかを示す指数であり、100%を下回る場合、汚水処理に係る費用が下水道使用料以外の収入で補われていることを意味する。

(4) 経費回収率等の推移

最近4か年における経費回収率等の推移は次のとおりである。

(単位：円、%)

| 区 分 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----------------|--------|-------|-------|-------|
| 下 水 道 使 用 料 単 価 | 92.24 | 91.23 | 77.09 | 90.95 |
| 汚 水 処 理 原 価 | 83.43 | 84.31 | 81.35 | 74.25 |
| 経 費 回 収 率 | 110.6 | 108.2 | 94.8 | 122.5 |



(5) 一般会計からの繰入金

一般会計からの繰入金及び前年度との比較は次のとおりである。

(単位：円、%)

| 区 分 | | | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度 増減額 | 対前年度 増減率 | |
|-------|-----------|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------|
| 収益的収入 | 営業 収益 | 負担 金 | 雨水処理負担金 | 758,931,000 | 684,607,000 | 74,324,000 | 10.9 |
| | | | 小 計 | 758,931,000 | 684,607,000 | 74,324,000 | 10.9 |
| | 営業外 収益 | 補助 金 | 水質規制費 | 13,600,000 | 15,287,000 | △ 1,687,000 | △ 11.0 |
| | | | 水洗便所等普及費 | 3,400,000 | 3,822,000 | △ 422,000 | △ 11.0 |
| | | | 地公法の適用に要する経費 | 8,870,000 | 8,892,000 | △ 22,000 | △ 0.2 |
| | | | 高度処理費 | 2,943,000 | 8,793,000 | △ 5,850,000 | △ 66.5 |
| | | | 不明水処理費 | 16,221,000 | 15,433,000 | 788,000 | 5.1 |
| | | | 児童手当 | 1,296,000 | 1,028,000 | 268,000 | 26.1 |
| | | | 臨時財政特例債（利息） | 498,000 | 714,000 | △ 216,000 | △ 30.3 |
| | | | 分流式下水道等に要する経費 | 136,501,000 | 190,918,000 | △ 54,417,000 | △ 28.5 |
| | | | 基準外繰入金 | 134,877,000 | 390,034,000 | △ 255,157,000 | △ 65.4 |
| | | | 小 計 | 318,206,000 | 634,921,000 | △ 316,715,000 | △ 49.9 |
| 資本的収入 | 補助 金 | 雨水処理費 | 9,500,000 | 0 | 9,500,000 | 皆増 | |
| | | 臨時財政特例債（元金） | 5,298,000 | 5,076,000 | 222,000 | 4.4 | |
| | | 小 計 | 14,798,000 | 5,076,000 | 9,722,000 | 191.5 | |
| 繰入金合計 | | | 1,091,935,000 | 1,324,604,000 | △ 232,669,000 | △ 17.6 | |

地方公営企業の経営は、受益者負担による独立採算制が原則であるが、民間企業とは異なる特殊性があることから、地方公営企業法において一般会計が経費の一部を負担・補助することが定められている。具体的な基準・内容については、毎年度総務省から通知される。

一般会計からの繰入金合計額は10億9,194万円で、前年度と比較して2億3,267万円減少している。

4 収益的収支の状況 (資料 下水道事業 別表1 P100～101参照)

(1) 収益

(単位：円、%)

| 区 分 | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度 増減額 | 対前年度 増減率 |
|----------|---------------|---------------|---------------|-------------|
| 下水道事業収益 | 2,908,100,208 | 3,087,630,407 | △ 179,530,199 | △ 5.8 |
| 営業収益 | 1,745,146,613 | 1,532,766,284 | 212,380,329 | 13.9 |
| 下水道使用料 | 970,236,385 | 830,180,314 | 140,056,071 | 16.9 |
| 受託事業収益 | 2,427,275 | 3,840,003 | △ 1,412,728 | △ 36.8 |
| 他会計負担金 | 758,931,000 | 684,607,000 | 74,324,000 | 10.9 |
| その他の営業収益 | 13,551,953 | 14,138,967 | △ 587,014 | △ 4.2 |
| 営業外収益 | 1,162,454,568 | 1,554,580,312 | △ 392,125,744 | △ 25.2 |
| 補助金 | 318,206,000 | 634,921,000 | △ 316,715,000 | △ 49.9 |
| 長期前受金戻入 | 843,772,149 | 919,180,132 | △ 75,407,983 | △ 8.2 |
| 雑収益 | 476,419 | 479,180 | △ 2,761 | △ 0.6 |
| 特別利益 | 499,027 | 283,811 | 215,216 | 75.8 |
| 固定資産売却益 | 206,448 | 0 | 206,448 | 皆増 |
| 過年度損益修正益 | 292,579 | 283,811 | 8,768 | 3.1 |

下水道事業収益

下水道事業収益は29億810万円で、前年度と比較して1億7,953万円（5.8%）減少している。

営業収益

営業収益は17億4,515万円で、前年度と比較して2億1,238万円（13.9%）増加している。その主な要因は、下水道使用料が1億4,006万円増加したことによるものである。

営業外収益

営業外収益は11億6,245万円で、前年度と比較して3億9,213万円（25.2%）減少している。その主な要因は、補助金が3億1,672万円減少したことによるものである。

特別利益

特別利益は50万円で、前年度と比較して22万円（75.8%）増加している。

(2) 費用

(単位：円、%)

| 区 分 | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度 増減額 | 対前年度 増減率 |
|-------------------|---------------|---------------|---------------|-------------|
| 下水道事業費用 | 2,356,513,672 | 2,654,482,647 | △ 297,968,975 | △ 11.2 |
| 営業費用 | 2,171,298,705 | 2,434,388,379 | △ 263,089,674 | △ 10.8 |
| 管 渠 費 | 157,051,029 | 171,379,773 | △ 14,328,744 | △ 8.4 |
| 芦屋下水処理場費 | 424,529,842 | 488,100,167 | △ 63,570,325 | △ 13.0 |
| 南芦屋浜下水処理場費 | 70,862,972 | 74,306,902 | △ 3,443,930 | △ 4.6 |
| 抽水場費 | 34,816,982 | 60,941,348 | △ 26,124,366 | △ 42.9 |
| 受託事業費 | 1,897,095 | 3,053,080 | △ 1,155,985 | △ 37.9 |
| 総 係 費 | 88,479,252 | 94,948,849 | △ 6,469,597 | △ 6.8 |
| 減価償却費 | 1,318,415,738 | 1,503,480,929 | △ 185,065,191 | △ 12.3 |
| 資産減耗費 | 75,245,795 | 38,177,331 | 37,068,464 | 97.1 |
| 営業外費用 | 184,669,744 | 219,813,195 | △ 35,143,451 | △ 16.0 |
| 支払利息及び 企業債取扱諸費 | 145,163,262 | 162,248,472 | △ 17,085,210 | △ 10.5 |
| 雑 支 出 | 39,506,482 | 57,564,723 | △ 18,058,241 | △ 31.4 |
| 特別損失 | 545,223 | 281,073 | 264,150 | 94.0 |
| 過年度損益修正損 | 545,223 | 281,073 | 264,150 | 94.0 |

下水道事業費用

下水道事業費用は23億5,651万円で、前年度と比較して2億9,797万円（11.2%）減少している。

営業費用

営業費用は21億7,130万円で、前年度と比較して2億6,309万円（10.8%）減少している。その主な要因は、減価償却費が1億8,507万円、芦屋下水処理場費が6,357万円減少したことによるものである。

営業外費用

営業外費用は1億8,467万円で、前年度と比較して3,514万円（16.0%）減少している。その主な要因は、雑支出が1,806万円減少したことによるものである。

特別損失

特別損失55万円は過年度損益修正損で、前年度と比較して26万円（94.0%）増加している。

5 資本的収支の状況

(消費税込み)

(単位：円、%)

| 区 分 | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度 増減額 | 対前年度 増減率 |
|-----------------|---------------|---------------|--------------|-------------|
| 資 本 的 収 入 (A) | 402,036,865 | 460,395,440 | △ 58,358,575 | △ 12.7 |
| 企 業 債 | 218,700,000 | 306,000,000 | △ 87,300,000 | △ 28.5 |
| 他 会 計 補 助 金 | 14,798,000 | 5,076,000 | 9,722,000 | 191.5 |
| 国 庫 補 助 金 | 168,500,000 | 149,300,000 | 19,200,000 | 12.9 |
| 固 定 資 産 売 却 代 金 | 38,865 | 19,440 | 19,425 | 99.9 |
| 資 本 的 支 出 (B) | 1,302,648,504 | 1,346,999,319 | △ 44,350,815 | △ 3.3 |
| 建 設 改 良 費 | 478,138,558 | 514,770,445 | △ 36,631,887 | △ 7.1 |
| 固 定 資 産 購 入 費 | 1,240,800 | 1,600,720 | △ 359,920 | △ 22.5 |
| 企 業 債 償 還 金 | 823,269,146 | 830,628,154 | △ 7,359,008 | △ 0.9 |
| 予 備 費 | 0 | 0 | 0 | — |
| 差 額 (A-B) | △ 900,611,639 | △ 886,603,879 | △ 14,007,760 | 1.6 |

資本的収入

資本的収入は4億204万円で、前年度と比較して5,836万円（12.7%）減少している。その要因は、他会計補助金が972万円、国庫補助金が1,920万円、固定資産売却代金が2万円それぞれ増加したものの、企業債が8,730万円減少したことによるものである。

資本的支出

資本的支出は13億265万円で、前年度と比較して4,435万円（3.3%）減少している。その要因は、建設改良費が3,663万円、固定資産購入費が36万円、企業債償還金が736万円それぞれ減少したことによるものである。

建設改良費については、南芦屋浜排水区浸水対策工事（その2）が3,807万円、（その3）が5,716万円、南芦屋浜下水処理場監視制御設備更新工事が1億1,739万円、宮塚町15街区先下水管布設替工事3,262万円などが主なものである。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額9億61万円は、当年度損益勘定留保資金5億4,989万円、減債積立金3億1,105万円及び当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額3,967万円で補填している。

6 財政状態 (資料 下水道事業 別表2 P102~103参照)

(1) 資産

(単位：円、%)

| 区 分 | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度 増減額 | 対前年度 増減率 |
|-------------|----------------|----------------|---------------|-------------|
| 資 産 | 31,188,838,182 | 31,959,700,681 | △ 770,862,499 | △ 2.4 |
| 固 定 資 産 | 29,719,967,666 | 30,673,961,779 | △ 953,994,113 | △ 3.1 |
| 有 形 固 定 資 産 | 29,706,474,061 | 30,659,701,840 | △ 953,227,779 | △ 3.1 |
| 無 形 固 定 資 産 | 13,493,605 | 14,259,939 | △ 766,334 | △ 5.4 |
| 流 動 資 産 | 1,468,870,516 | 1,285,738,902 | 183,131,614 | 14.2 |
| 現 金 預 金 | 1,351,154,247 | 1,165,392,954 | 185,761,293 | 15.9 |
| 未 収 金 | 117,716,269 | 120,345,948 | △ 2,629,679 | △ 2.2 |

資 産

資産は311億8,884万円で、前年度と比較して7億7,086万円(2.4%)減少している。

固定資産

固定資産は297億1,997万円で、前年度と比較して9億5,399万円(3.1%)減少している。その主な要因は、有形固定資産のうち、建設仮勘定が6,954万円増加したものの、機械及び装置が1億2,054万円、構築物が8億3,648万円それぞれ減少したことによるものである。

流動資産

流動資産は14億6,887万円で、前年度と比較して1億8,313万円(14.2%)増加している。その要因は、未収金が263万円減少したものの、現金預金が1億8,576万円増加したことによるものである。

(2) 負債及び資本

(単位：円、%)

| 区 分 | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度 増減額 | 対前年度 増減率 |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------------|
| 負 債 | 24,789,202,415 | 26,111,651,450 | △ 1,322,449,035 | △ 5.1 |
| 固 定 負 債 | 7,683,480,626 | 8,285,956,873 | △ 602,476,247 | △ 7.3 |
| 企 業 債 | 7,661,787,646 | 8,270,238,426 | △ 608,450,780 | △ 7.4 |
| 引 当 金 | 21,692,980 | 15,718,447 | 5,974,533 | 38.0 |
| 流 動 負 債 | 1,103,210,301 | 1,162,708,940 | △ 59,498,639 | △ 5.1 |
| 企 業 債 | 827,150,780 | 823,269,146 | 3,881,634 | 0.5 |
| 未 払 金 | 261,665,168 | 324,424,141 | △ 62,758,973 | △ 19.3 |
| 引 当 金 | 13,033,000 | 13,550,000 | △ 517,000 | △ 3.8 |
| 預 り 金 | 1,361,353 | 1,465,653 | △ 104,300 | △ 7.1 |
| 繰 延 収 益 | 16,002,511,488 | 16,662,985,637 | △ 660,474,149 | △ 4.0 |
| 長 期 前 受 金 | 19,514,155,611 | 19,434,961,106 | 79,194,505 | 0.4 |
| 収 益 化 累 計 額 | △ 3,511,644,123 | △ 2,771,975,469 | △ 739,668,654 | — |
| 資 本 | 6,399,635,767 | 5,848,049,231 | 551,586,536 | 9.4 |
| 資 本 金 | 2,597,396,493 | 2,397,396,493 | 200,000,000 | 8.3 |
| 剰 余 金 | 3,802,239,274 | 3,450,652,738 | 351,586,536 | 10.2 |
| 資 本 剰 余 金 | 2,749,584,302 | 2,749,584,302 | 0 | — |
| 利 益 剰 余 金 | 1,052,654,972 | 701,068,436 | 351,586,536 | 50.2 |
| 負 債 資 本 合 計 | 31,188,838,182 | 31,959,700,681 | △ 770,862,499 | △ 2.4 |

負 債

負債は247億8,920万円で、前年度と比較して13億2,245万円（5.1%）減少している。

固定負債

固定負債は76億8,348万円で、前年度と比較して6億248万円（7.3%）減少している。その要因は、退職給付引当金が597万円増加したものの、建設改良企業債が6億845万円減少したことによるものである。

流動負債

流動負債は11億321万円で、前年度と比較して5,950万円（5.1%）減少している。その要因は、建設改良企業債が388万円増加したものの、未払金が6,276万円、賞与引当金が52万円、預り金が10万円それぞれ減少したことによるものである。

繰延収益

繰延収益は160億251万円で、前年度と比較して6億6,047万円（4.0%）減少している。

繰延収益は長期前受金195億1,416万円から収益化累計額35億1,164万円を控除したもので、固定資産の取得または改良に伴い交付される補助金等を「長期前受金」として負債（繰延収益）に計上したうえで、減価償却に合わせて順次収益化（収益化累計額）していくものとされている。

資 本

資本は63億9,964万円で、前年度と比較して5億5,159万円（9.4%）増加している。

資 本金

資本金は25億9,740万円で、前年度と比較して2億円（8.3%）増加している。これは市議会の議決を経て、未処分利益剰余金2億円を資本金に組入れたことが要因である。

剰 余 金

剰余金は38億224万円で、前年度と比較して3億5,159万円（10.2%）増加している。

資本剰余金は27億4,958万円で、前年度と同額である。内訳は国庫補助金23億9,369万円、受贈資産評価額3億5,590万円となっている。

利益剰余金は10億5,265万円で、前年度と比較して3億5,159万円（50.2%）増加している。すべて当年度未処分利益剰余金で、当年度純利益5億5,159万円に、前年度繰越利益剰余金2億845万円、その他未処分利益剰余金変動額2億9,262万円を加えた合計額となっている。

7 キャッシュ・フロー計算書の概略 (資料 下水道事業 別表3 P104 参照)

(単位：円)

| 区 分 | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度 増減額 |
|-------------------------------|---------------|---------------|---------------|
| I 業務活動による キャッシュ・フロー | 1,046,493,411 | 1,218,327,928 | △ 171,834,517 |
| II 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 256,162,972 | △ 317,994,751 | 61,831,779 |
| III 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 604,569,146 | △ 524,628,154 | △ 79,940,992 |
| 資 金 増 減 額 (I + II + III) | 185,761,293 | 375,705,023 | △ 189,943,730 |
| 資 金 期 首 残 高 | 1,165,392,954 | 789,687,931 | 375,705,023 |
| 資 金 期 末 残 高 | 1,351,154,247 | 1,165,392,954 | 185,761,293 |

業務活動によるキャッシュ・フローは、当年度純利益を5億5,159万円計上したこと等により、10億4,649万円の資金が流入した。

投資活動によるキャッシュ・フローは、補助金等により1億8,330万円の収入、有形固定資産の売却により24万円の収入があったものの、有形固定資産の取得により4億3,962万円の支出をしたこと等により、2億5,616万円の資金が流出した。

財務活動によるキャッシュ・フローは、企業債の発行により2億1,870万円の収入があったものの、企業債の償還により8億2,327万円の支出をしたことにより、6億457万円の資金が流出した。

以上の結果、当年度における資金（現金預金）は、前年度と比べて、1億8,576万円増加しており、資金期末残高は13億5,115万円となっている。

キャッシュ・フロー計算書の概要説明

| 区分 | 概要説明 |
|------------------|--|
| キャッシュ・フロー計算書 | 一会計年度における期首から期末までの現金等の増減を、業務活動、投資活動、及び財務活動の3つの活動区分に分類し、項目別に表示した計算書 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 主に企業が通常の業務活動を実施することにより発生する資金収支を表示する項目 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 固定資産取得による支出、固定資産売却による収入など、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動による資金収支を表示する項目 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 企業債の発行と償還、他会計からの借入金の借入または返済など、財務活動による資金収支を表示する項目 |

8 経営改善の実施状況等

(1) 経営戦略（平成31年3月策定）との比較

(単位：円、%)

| 区 分 | | 計画値 (A) | 決算値 (B) | 差 引 (B-A) | 達成率 B/A×100 |
|------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|----------------|
| 収益的 収 支 | 営 業 収 益 | 1,606,556,000 | 1,745,146,613 | 138,590,613 | 108.6 |
| | 営 業 外 収 益 | 1,421,035,000 | 1,162,454,568 | △ 258,580,432 | 81.8 |
| | 収 益 合 計 (A) | 3,027,591,000 | 2,907,601,181 | △ 119,989,819 | 96.0 |
| | 営 業 費 用 | 2,344,174,000 | 2,171,298,705 | △ 172,875,295 | 92.6 |
| | 営 業 外 費 用 | 210,930,000 | 184,669,744 | △ 26,260,256 | 87.6 |
| | 費 用 合 計 (B) | 2,555,104,000 | 2,355,968,449 | △ 199,135,551 | 92.2 |
| | 経 常 損 益 (C=A-B) | 472,487,000 | 551,632,732 | 79,145,732 | |
| | 特 別 利 益 (D) | 93,000 | 499,027 | 406,027 | 536.6 |
| | 特 別 損 失 (E) | 1,852,000 | 545,223 | △ 1,306,777 | 29.4 |
| | 純 損 益 (C+D-E) | 470,728,000 | 551,586,536 | 80,858,536 | |
| 資本的 収 支 | 収 入 (F) | 950,636,000 | 402,036,865 | △ 548,599,135 | 42.3 |
| | 支 出 (G) | 1,713,091,000 | 1,302,648,504 | △ 410,442,496 | 76.0 |
| | 差 額 (F-G) | △ 762,455,000 | △ 900,611,639 | △ 138,156,639 | |

注：収益的収支は税抜 資本的収支は税込

平成31年3月に策定された「芦屋市下水道事業経営戦略」の収支計画における平成33年度（当時）計画値と令和3年度決算値との比較については、達成率欄の太字で示した率が、決算値が計画値を上回ったものになる。（収益・利益・収入は100%以上のもの、費用・損失・支出は100%以下のもの）

以上の結果、経常損益は7,915万円増加の経常利益、純損益は8,086万円増加の純利益となり、いずれも決算値が上回っている。

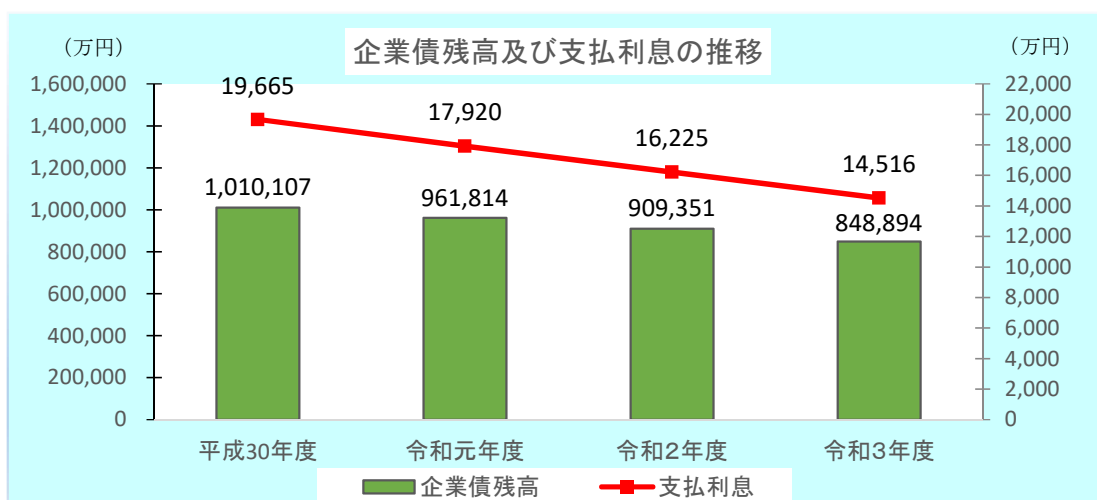
また、資本的収入から資本的支出を減じた差額については、マイナス額が1億3,816万円の増加となり、決算値が下回っている。

(2) 企業債の状況

最近4か年間における企業債残高等の推移は次のとおりである。

(単位：円)

| 区 分 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----------|----------------|---------------|---------------|---------------|
| 借 入 額 | 219,200,000 | 347,400,000 | 306,000,000 | 218,700,000 |
| 償 還 額 | 871,789,649 | 830,338,284 | 830,628,154 | 823,269,146 |
| 企 業 債 残 高 | 10,101,074,010 | 9,618,135,726 | 9,093,507,572 | 8,488,938,426 |
| 支 払 利 息 | 196,651,669 | 179,196,682 | 162,248,472 | 145,163,262 |



(3) 令和3年度末未収下水道使用料残高

(単位：円)

| 区 分 | 現年度分 | 過年度分 |
|-----------------|-------------|-----------|
| 未 収 下 水 道 使 用 料 | 103,385,605 | 5,620,873 |

(4) 不納欠損の状況

不納欠損額・件数及び前年度との比較は次のとおりである。

(単位：件、円)

| 区 分 | 令和3年度 | | 令和2年度 | |
|---------------|-------|---------|-------|---------|
| | 件数 | 金 額 | 件数 | 金 額 |
| 時 効 経 過 | 95 | 268,486 | 86 | 281,298 |
| 相 続 限 定 承 認 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 失 踪 ・ 行 方 不 明 | 39 | 58,434 | 70 | 152,600 |
| 破 産 等 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 134 | 326,920 | 156 | 433,898 |

注：全て下水道使用料

9 むすび

以上が令和3年度における芦屋市下水道事業の決算概要である。

業務実績については、年間総処理水量が1,982万4,767 m^3 と前年度よりも81万2,774 m^3 (3.9%)減少し、有収率は60.7%と前年度よりも2.6ポイント低下している。また、当年度の処理区域内の人口は9万5,149人で、前年度より128人(0.1%)減少している。

次に、経営成績に関しては、本業の営業損益は4億2,615万円の営業損失ながらも前年度より4億7,547万円好転し、経常損益は5億5,163万円の経常利益となり、前年度から1億1,849万円の好転となった。経常利益に特別利益50万円を加え、特別損失55万円を減じた結果、当年度純利益は5億5,159万円となり、前年度から1億1,844万円好転し、引き続き黒字となった。

また、営業収支比率は80.3%となったものの前年度から17.4ポイント上昇し、経常収支比率は123.4%と前年度と同様100%を上回っている。

営業損益は赤字というものの、根幹となる下水道使用料収入は前年度から増加している。これは、前年度に実施した下水道使用料の減免措置がなくなったことと共に、テレワーク等により在宅時間が長くなったことによる家庭での汚水量の増加も寄与していると思われる。

本市の下水道事業においては、多くの管路や施設が老朽化しており、更新する時期を迎えていることや、予測される南海トラフ大地震や大型台風、ゲリラ豪雨をはじめとする自然災害への対策による更なる支出が懸念される。

一方、下水道使用料収入については、人口減少や節水意識の向上により需要の増加は期待できないと思われる。そのような中、財源確保に関しては、今後も国庫補助金等を積極的に活用にする他、不公平感のない未収金の整理や早期着手にも取り組んでいただきたい。

今後も下水道事業を安定して運営していくためには、効率的・合理的な事業経営が求められる。令和3年度改訂版「芦屋市下水道ビジョン」に基づき、着実な資産管理の適正化に努め、収支計画で掲げられた安定した事業運営を目指してほしい。

以 上

資 料 目 次

(下水道事業 別表1) 比較損益計算書・・・・・・・・・・ 100

(下水道事業 別表2) 比較貸借対照表・・・・・・・・・・ 102

(下水道事業 別表3) 比較キャッシュ・フロー計算書・・ 104

(下水道事業 別表4) 財務分析表・・・・・・・・・・ 106

比較損益計算書

下水道事業 別表1

| 科 目 | 令和3年度 | | 令和2年度 | | 対前年度 増減額 | 対前年 度比率 |
|-----------------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|----------------------|--------------|
| | 金 額 | 構 成 比 率 | 金 額 | 構 成 比 率 | | |
| | 円 | | 円 | | 円 | % |
| 1 営業費用 | 2,171,298,705 | 92.2 | 2,434,388,379 | 91.7 | △ 263,089,674 | 89.2 |
| (1) 管 渠 費 | 157,051,029 | 6.7 | 171,379,773 | 6.4 | △ 14,328,744 | 91.6 |
| (2) 芦屋下水処理場費 | 424,529,842 | 18.0 | 488,100,167 | 18.4 | △ 63,570,325 | 87.0 |
| (3) 南芦屋浜下水処理場費 | 70,862,972 | 3.0 | 74,306,902 | 2.8 | △ 3,443,930 | 95.4 |
| (4) 抽 水 場 費 | 34,816,982 | 1.5 | 60,941,348 | 2.3 | △ 26,124,366 | 57.1 |
| (5) 受 託 事 業 費 | 1,897,095 | 0.1 | 3,053,080 | 0.1 | △ 1,155,985 | 62.1 |
| (6) 総 係 費 | 88,479,252 | 3.7 | 94,948,849 | 3.6 | △ 6,469,597 | 93.2 |
| (7) 減 価 償 却 費 | 1,318,415,738 | 56.0 | 1,503,480,929 | 56.7 | △ 185,065,191 | 87.7 |
| (8) 資 産 減 耗 費 | 75,245,795 | 3.2 | 38,177,331 | 1.4 | 37,068,464 | 197.1 |
| 2 営業外費用 | 184,669,744 | 7.8 | 219,813,195 | 8.3 | △ 35,143,451 | 84.0 |
| (1) 支払利息及び 企業債取扱諸費 | 145,163,262 | 6.1 | 162,248,472 | 6.1 | △ 17,085,210 | 89.5 |
| (2) 雑 支 出 | 39,506,482 | 1.7 | 57,564,723 | 2.2 | △ 18,058,241 | 68.6 |
| 3 特別損失 | 545,223 | 0.0 | 281,073 | 0.0 | 264,150 | 194.0 |
| (1) 固定資産売却損 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | — |
| (2) 過年度損益修正損 | 545,223 | 0.0 | 281,073 | 0.0 | 264,150 | 194.0 |
| 小 計 | 2,356,513,672 | 100.0 | 2,654,482,647 | 100.0 | △ 297,968,975 | 88.8 |
| 当年度純利益 | 551,586,536 | — | 433,147,760 | — | 118,438,776 | — |
| 合 計 | 2,908,100,208 | — | 3,087,630,407 | — | △ 179,530,199 | — |

(単位：円、%)

| 科 目 | 令和3年度 | | 令和2年度 | | 対前年度 増減額 | 対前年 度比率 |
|--------------|---------------|------------|---------------|------------|---------------|------------|
| | 金 額 | 構 成 比 率 | 金 額 | 構 成 比 率 | | |
| | 円 | | 円 | | 円 | % |
| 1 営業収益 | 1,745,146,613 | 60.1 | 1,532,766,284 | 49.6 | 212,380,329 | 113.9 |
| (1) 下水道使用料 | 970,236,385 | 33.4 | 830,180,314 | 26.9 | 140,056,071 | 116.9 |
| (2) 受託事業収益 | 2,427,275 | 0.1 | 3,840,003 | 0.1 | △ 1,412,728 | 63.2 |
| (3) 他会計負担金 | 758,931,000 | 26.1 | 684,607,000 | 22.2 | 74,324,000 | 110.9 |
| (4) その他営業収益 | 13,551,953 | 0.5 | 14,138,967 | 0.4 | △ 587,014 | 95.8 |
| 2 営業外収益 | 1,162,454,568 | 39.9 | 1,554,580,312 | 50.4 | △ 392,125,744 | 74.8 |
| (1) 補助金 | 318,206,000 | 10.9 | 634,921,000 | 20.6 | △ 316,715,000 | 50.1 |
| (2) 長期前受金戻入 | 843,772,149 | 29.0 | 919,180,132 | 29.8 | △ 75,407,983 | 91.8 |
| (3) 雑収益 | 476,419 | 0.0 | 479,180 | 0.0 | △ 2,761 | 99.4 |
| 3 特別利益 | 499,027 | 0.0 | 283,811 | 0.0 | 215,216 | 175.8 |
| (1) 固定資産売却益 | 206,448 | 0.0 | 0 | 0.0 | 206,448 | 皆増 |
| (2) 過年度損益修正益 | 292,579 | 0.0 | 283,811 | 0.0 | 8,768 | 103.1 |
| 小 計 | 2,908,100,208 | 100.0 | 3,087,630,407 | 100.0 | △ 179,530,199 | 94.2 |
| 当年度純損失 | 0 | — | 0 | — | 0 | — |
| 合 計 | 2,908,100,208 | — | 3,087,630,407 | — | △ 179,530,199 | — |

比較貸借対照表

下水道事業 別表2

| 科 目 | 令和3年度 | | 令和2年度 | | 対前年度 増減額 | 対前年 度比率 |
|------------|----------------|------------|----------------|------------|---------------|------------|
| | 金 額 | 構 成 比 率 | 金 額 | 構 成 比 率 | | |
| (資 産 の 部) | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 1 固定資産 | 29,719,967,666 | 95.3 | 30,673,961,779 | 96.0 | △ 953,994,113 | 96.9 |
| (1) 有形固定資産 | 29,706,474,061 | 95.3 | 30,659,701,840 | 96.0 | △ 953,227,779 | 96.9 |
| イ 土地 | 4,881,386,780 | 15.7 | 4,881,386,780 | 15.3 | 0 | 100.0 |
| ロ 建物 | 1,335,136,149 | 4.3 | 1,400,269,018 | 4.4 | △ 65,132,869 | 95.3 |
| ハ 構築物 | 21,520,597,978 | 69.0 | 22,357,077,944 | 70.0 | △ 836,479,966 | 96.3 |
| ニ 機械及び装置 | 1,782,738,842 | 5.7 | 1,903,274,347 | 6.0 | △ 120,535,505 | 93.7 |
| ホ 車両運搬具 | 2,745,505 | 0.0 | 2,756,340 | 0.0 | △ 10,835 | 99.6 |
| ヘ 工具器具及び備品 | 6,327,245 | 0.0 | 6,937,411 | 0.0 | △ 610,166 | 91.2 |
| ト 建設仮勘定 | 177,541,562 | 0.6 | 108,000,000 | 0.3 | 69,541,562 | 164.4 |
| (2) 無形固定資産 | 13,493,605 | 0.0 | 14,259,939 | 0.0 | △ 766,334 | 94.6 |
| イ 施設利用権 | 13,493,605 | 0.0 | 14,259,939 | 0.0 | △ 766,334 | 94.6 |
| 2 流動資産 | 1,468,870,516 | 4.7 | 1,285,738,902 | 4.0 | 183,131,614 | 114.2 |
| (1) 現金預金 | 1,351,154,247 | 4.3 | 1,165,392,954 | 3.6 | 185,761,293 | 115.9 |
| (2) 未収金 | 117,716,269 | 0.4 | 120,345,948 | 0.4 | △ 2,629,679 | 97.8 |
| 資産合計 | 31,188,838,182 | 100.0 | 31,959,700,681 | 100.0 | △ 770,862,499 | 97.6 |

注1：有形固定資産のうち、償却資産については直接控除方式によって表示している。

R3年度減価償却累計額 … 5,855,621,488円

R2年度減価償却累計額 … 4,644,352,358円

2：未収金は、貸倒引当金の額（R3年度4,709,829円、R2年度5,036,749円）を差し引いた後の額である。

(単位：円、%)

| 科 目 | 令和3年度 | | 令和2年度 | | 対前年度 増減額 | 対前年 度比率 |
|---------------|-----------------|------------|-----------------|------------|-----------------|------------|
| | 金 額 | 構 成 比 率 | 金 額 | 構 成 比 率 | | |
| (負債の部) | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 1 固定負債 | 7,683,480,626 | 24.7 | 8,285,956,873 | 25.9 | △ 602,476,247 | 92.7 |
| (1) 企業債 | 7,661,787,646 | 24.6 | 8,270,238,426 | 25.9 | △ 608,450,780 | 92.6 |
| イ 建設改良企業債 | 7,661,787,646 | 24.6 | 8,270,238,426 | 25.9 | △ 608,450,780 | 92.6 |
| (2) 引当金 | 21,692,980 | 0.1 | 15,718,447 | 0.0 | 5,974,533 | 138.0 |
| イ 退職給付引当金 | 21,692,980 | 0.1 | 15,718,447 | 0.0 | 5,974,533 | 138.0 |
| 2 流動負債 | 1,103,210,301 | 3.5 | 1,162,708,940 | 3.7 | △ 59,498,639 | 94.9 |
| (1) 企業債 | 827,150,780 | 2.7 | 823,269,146 | 2.7 | 3,881,634 | 100.5 |
| イ 建設改良企業債 | 827,150,780 | 2.7 | 823,269,146 | 2.7 | 3,881,634 | 100.5 |
| (2) 未払金 | 261,665,168 | 0.8 | 324,424,141 | 1.0 | △ 62,758,973 | 80.7 |
| (3) 引当金 | 13,033,000 | 0.0 | 13,550,000 | 0.0 | △ 517,000 | 96.2 |
| イ 賞与引当金 | 13,033,000 | 0.0 | 13,550,000 | 0.0 | △ 517,000 | 96.2 |
| (4) 預り金 | 1,361,353 | 0.0 | 1,465,653 | 0.0 | △ 104,300 | 92.9 |
| 3 繰延収益 | 16,002,511,488 | 51.3 | 16,662,985,637 | 52.1 | △ 660,474,149 | 96.0 |
| (1) 長期前受金 | 19,514,155,611 | 62.6 | 19,434,961,106 | 60.8 | 79,194,505 | 100.4 |
| (2) 収益化累計額 | △ 3,511,644,123 | △ 11.3 | △ 2,771,975,469 | △ 8.7 | △ 739,668,654 | 126.7 |
| 負債合計 | 24,789,202,415 | 79.5 | 26,111,651,450 | 81.7 | △ 1,322,449,035 | 94.9 |
| (資本の部) | | | | | | |
| 1 資本金 | 2,597,396,493 | 8.3 | 2,397,396,493 | 7.5 | 200,000,000 | 108.3 |
| 2 剰余金 | 3,802,239,274 | 12.2 | 3,450,652,738 | 10.8 | 351,586,536 | 110.2 |
| (1) 資本剰余金 | 2,749,584,302 | 8.8 | 2,749,584,302 | 8.6 | 0 | 100.0 |
| イ 国庫補助金 | 2,393,688,306 | 7.7 | 2,393,688,306 | 7.5 | 0 | 100.0 |
| ロ 受贈資産評価額 | 355,895,996 | 1.1 | 355,895,996 | 1.1 | 0 | 100.0 |
| (2) 利益剰余金 | 1,052,654,972 | 3.4 | 701,068,436 | 2.2 | 351,586,536 | 150.2 |
| イ 減債積立金 | 0 | 0.0 | 59,471,898 | 0.2 | △ 59,471,898 | 皆減 |
| ロ 当年度未処分利益剰余金 | 1,052,654,972 | 3.4 | 641,596,538 | 2.0 | 411,058,434 | 164.1 |
| 資本合計 | 6,399,635,767 | 20.5 | 5,848,049,231 | 18.3 | 551,586,536 | 109.4 |
| 負債・資本合計 | 31,188,838,182 | 100.0 | 31,959,700,681 | 100.0 | △ 770,862,499 | 97.6 |

比較キャッシュ・フロー計算書

下水道事業 別表3

(単位：円)

| 項 目 | 令和3年度 | 令和2年度 | 対前年度増減額 |
|---------------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| I 業務活動によるキャッシュ・フロー | 1,046,493,411 | 1,218,327,928 | △ 171,834,517 |
| 当年度純利益 | 551,586,536 | 433,147,760 | 118,438,776 |
| 減価償却費 | 1,318,415,738 | 1,503,480,929 | △ 185,065,191 |
| 引当金の増減額 (△は減少) | 5,130,613 | 5,244,562 | △ 113,949 |
| 長期前受金戻入額 | △ 843,772,149 | △ 919,180,132 | 75,407,983 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 145,163,262 | 162,248,472 | △ 17,085,210 |
| 固定資産売却益 | △ 206,448 | 0 | △ 206,448 |
| 固定資産除売却損 | 75,245,795 | 38,177,331 | 37,068,464 |
| 未収金の増減額 (△は増加) | 2,956,599 | △ 9,198,243 | 12,154,842 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | △ 62,758,973 | 184,856,827 | △ 247,615,800 |
| その他 | △ 104,300 | △ 18,201,106 | 18,096,806 |
| 小計 | 1,191,656,673 | 1,380,576,400 | △ 188,919,727 |
| 利息の支払額 | △ 145,163,262 | △ 162,248,472 | 17,085,210 |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 256,162,972 | △ 317,994,751 | 61,831,779 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △ 439,615,148 | △ 472,299,777 | 32,684,629 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 241,780 | 17,673 | 224,107 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △ 87,604 | △ 88,647 | 1,043 |
| 補助金等による収入 | 183,298,000 | 154,376,000 | 28,922,000 |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 604,569,146 | △ 524,628,154 | △ 79,940,992 |
| 建設改良費等の財源に充てるための 企業債による収入 | 218,700,000 | 306,000,000 | △ 87,300,000 |
| 建設改良費等の財源に充てるための 企業債の償還による支出 | △ 823,269,146 | △ 830,628,154 | 7,359,008 |
| 資金増加額 (又は減少額) | 185,761,293 | 375,705,023 | △ 189,943,730 |
| 資金期首残高 | 1,165,392,954 | 789,687,931 | 375,705,023 |
| 資金期末残高 | 1,351,154,247 | 1,165,392,954 | 185,761,293 |

財務分析表

下水道事業 別表4

| 項目 | | 算出式 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------------|---------------|---|------------|------------|------------|
| 構成比率 | ① 固定資産構成比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$ | 97.2 % | 96.0 % | 95.3 % |
| | ② 固定負債構成比率 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ | 26.9 % | 25.9 % | 24.6 % |
| | ③ 自己資本構成比率 | $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$ | 70.0 % | 70.4 % | 71.8 % |
| 財務比率 | ④ 固定資産対長期資本比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$ | 100.3 % | 99.6 % | 98.8 % |
| | ⑤ 固定比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$ | 139.0 % | 136.3 % | 132.7 % |
| | ⑥ 流動比率 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 89.7 % | 110.6 % | 133.1 % |
| | ⑦ 当座比率 | $\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$ | 89.7 % | 110.6 % | 133.1 % |
| | ⑧ 現金預金比率 | $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 78.6 % | 100.2 % | 122.5 % |
| 回 轉 率 | ⑨ 自己資本回轉率 | $\frac{\text{営業収益} (\text{営業収益} - \text{受託工事収益})}{\text{平均自己資本} (\text{期首自己資本} + \text{期末自己資本} \div 2)}$ | 0.07 回 | 0.07 回 | 0.08 回 |
| | ⑩ 固定資産回轉率 | $\frac{\text{営業収益} (\text{営業収益} - \text{受託工事収益})}{\text{平均固定資産} (\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産} \div 2)}$ | 0.05 回 | 0.05 回 | 0.06 回 |
| | ⑪ 減価償却率 | $\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{有形固定資産} + \text{無形固定資産} - \text{土地} - \text{建設仮勘定} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$ | 5.57 % | 5.53 % | 5.08 % |
| | ⑫ 流動資産回轉率 | $\frac{\text{営業収益} (\text{営業収益} - \text{受託工事収益})}{\text{平均流動資産} (\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産} \div 2)}$ | 2.12 回 | 1.40 回 | 1.27 回 |

| 令和2年度 全国平均値 | 指標の意味、分析の考え方 |
|----------------|--|
| 97.1 % | 固定資産構成比率は、総資産（固定資産＋流動資産＋繰延資産）に対する固定資産の占める割合を示すものであり、この比率が高いほど、資本が固定化の傾向にある。 |
| 37.1 % | 固定負債構成比率は、総資本（負債＋資本）とこれを構成する固定負債の関係を示すものであり、この比率は低い方が経営の安全性は保たれている。 |
| 64.1 % | 自己資本構成比率は、総資本（負債＋資本）とこれを構成する自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）の関係を示すものであり、この比率は高い方が経営の安全性は保たれている。 |
| 101.4 % | 固定資産対長期資本比率は、固定資産の調達が自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額＋繰延収益）と固定負債の範囲内で賄うべきとの立場から、100%以下であることが望ましく、100%を超えた場合には固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。 |
| 151.5 % | 固定比率は、固定資産が自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）によって賄われるべきであるとする企業財政上の原則から、100%以下が望ましいとされている。 |
| 68.5 % | 流動比率は、1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較するもので、流動性を確保するためには、流動資産が流動負債の2倍以上であることが求められるので、理想比率は200%以上とされている。 |
| 61.5 % | 当座比率は、流動資産のうち、現金預金及び容易に現金化しうる未収金と流動負債を対比させたもので、100%以上が理想比率とされている。 |
| 46.2 % | 現金預金比率は、流動負債に対する現金預金の割合を示し、これは20%以上が理想比率とされている。 |
| 0.06 回 | 自己資本回転率は、自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）に対する営業収益の割合で、期間中に自己資本の何倍の営業収益があったかを示し、企業に投下した自己資本の効率を測定するものである。回転率が高いほど資本金等の利用効率が良好である。 |
| 0.04 回 | 固定資産回転率は、固定資産に対する営業収益の割合で、施設整備利用の適否を測るためのものである。回転率が高いほど施設設備利用の効率が良好である。 |
| 3.87 % | 減価償却率は、減価償却費を固定資産の帳簿価格と比較することによって、固定資産に投下された資本の回収状況をみるためのものである。 |
| 1.27 回 | 流動資産回転率は、流動資産に対する営業収益の割合で、回転率が過大の場合は流動資産の平均保有高が過少であり、過少の場合は流動資産の平均保有高が過大であるといえる。 |

注：全国平均値は総務省が公開している令和2年度地方公営企業年鑑より引用

財 務 分 析 表

| 項 目 | | 算 出 式 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|------------------------------------|--|--|------------|------------|------------|
| 収 益 率 | ⑬ 総 資 本 利 益 率 | $\frac{\text{当年度経常利益}}{\text{平均総資本 (期首総資本+期末総資本}\div 2)} \times 100$ | 1.41 % | 1.34 % | 1.75 % |
| | ⑭ 総 収 支 比 率 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ | 117.4 % | 116.3 % | 123.4 % |
| | ⑮ 経 常 収 支 比 率 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ | 117.3 % | 116.3 % | 123.4 % |
| | ⑯ 営 業 収 支 比 率 | $\frac{\text{営業収益 (営業収益-受託工事収益)}}{\text{営業費用 (営業費用-受託工事費用)}} \times 100$ | 68.4 % | 62.9 % | 80.3 % |
| そ の 他 | ⑰ 利 子 負 担 率 | $\frac{\text{支払利息+企業債取扱諸費}}{\text{企業債+借入金+一時借入金+リース債務}} \times 100$ | 1.9 % | 1.8 % | 1.7 % |
| | ⑱ 企 業 債 元 金 償 還 金 対 減 価 償 却 費 比 率 | $\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{当年度減価償却費-長期前受金戻入}} \times 100$ | 133.7 % | 142.2 % | 173.4 % |
| | ⑲ 累 積 欠 損 金 比 率 | $\frac{\text{累積欠損金}}{\text{営業収益 (営業収益-受託工事収益)}} \times 100$ | — % | — % | — % |
| | ⑳ 企 業 債 償 元 金 償 還 金 対 料 金 収 入 比 率 | $\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$ | 87.0 % | 100.1 % | 84.9 % |
| | ㉑ 企 業 債 利 息 対 料 金 収 入 比 率 | $\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$ | 18.8 % | 19.5 % | 15.0 % |
| ㉒ 企 業 債 元 利 償 還 金 対 料 金 収 入 比 率 | $\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$ | 105.8 % | 119.6 % | 99.8 % | |

| 令和2年度 全国平均値 | 指標の意味、分析の考え方 |
|----------------|---|
| 0.39 % | 総資本利益率は、企業に投下された資本の総額（負債＋資本）とそれによってもたらされた利益を比較したものである。 |
| 105.7 % | 総収支比率は、総収益（営業収益＋営業外収益＋特別利益）と総費用（営業費用＋営業外費用＋特別損失）とを対比したものであり、収益と費用の相対的な関連を示すものである。 |
| 105.8 % | 経常収支比率は、経常収益（営業収益＋営業外収益）と経常費用（営業費用＋営業外費用）とを対比したものであり、経常収益と経常費用の相対的な関連を示すものである。100%以上であることが望ましい。 |
| 66.0 % | 営業収支比率は、業務活動によってもたらされた営業収益とそれに要した営業費用とを対比して、業務活動の能率を示すものであり、これによって経営活動の成否が判断されることになる。 |
| 1.5 % | 利子負担率は、支払利息と企業債等との割合で、資金調達のための負債に対して支払う支払利息の利率の高低を示すものであり、この率が低いほど低廉の資金を使用していることになる。 |
| 142.5 % | 企業債元金償還金対減価償却費比率は、当年度の企業債償還元金とその償還財源である減価償却費との割合で、企業債償還能力を示すものであり、この率が低いほど償還能力は高い。 |
| 7.4 % | 累積欠損金比率は、営業収益に対して、いくらもの累積欠損金（当年度未処理欠損金）があるかを示すものである。 |
| 105.3 % | 企業債元金償還金対料金収入比率は、料金収入に対する企業債償還元金の占める割合を示すものである。 |
| 21.7 % | 企業債利息対料金収入比率は、料金収入に対する企業債利息の占める割合を示すものである。 |
| 127.1 % | 企業債元利償還金対料金収入比率は、料金収入に対する企業債元利償還金の占める割合を示すものである。 |